

# Ki-67 distribution, AMACR expression, and mucin phenotypes are associated with non-polypoid growth in ulcerative colitis-associated neoplasia

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡野, 荘 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002939">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002939</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2624 号

A Novel Diagnostic Score System Differentiating Ulcerative Colitis-associated Neoplasia From Sporadic Adenoma/Intramucosal Adenocarcinoma by Using Immunohistochemical Detections of Neoplastic Factors

潰瘍性大腸炎関連腫瘍と散発性腺腫/粘膜内癌の鑑別のための免疫組織化学染色を用いた新規診断スコア

岡野 荘 (おかの そお)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は組織学的に類似する内視鏡的に切除された粘膜内病変が潰瘍性大腸炎関連腫瘍なのか散発性腺腫/粘膜内癌であるかを鑑別する新規の手法を提示した臨床的に意義ある論文である。

35 例の潰瘍性大腸炎関連腫瘍 (UCAN) と 71 例の散発性腺腫/粘膜内癌 (SA/A) を免疫組織化学染色で比較した。p53 陽性率、腫瘍腺管における Ki67 陽性細胞の分布、AMACR の発現、 $\beta$  カテニンの核内発現の有無、粘液形質 (MUC2、MUC5AC、MUC6、CD10) を検討した。上記 5 項目でロジスティック回帰分析を行うと、UCAN 群は SA/A 群に比較し p53 陽性率が高く (48.6% vs 12.7% : p=0.004)、Ki67 陽性細胞は深部パターンが多く (40% vs 2.8% : p=0.0007)、AMACR は陰性率が高く (28.5% vs 1.4% : p=0.02)、粘液形質は Non-intestinal phenotype が多かった (57.1% vs 36.6% : p=0.048)。 $\beta$  カテニンの核内発現は差を認めなかった。ロジスティック回帰分析で得られた偏回帰係数を係数として、統計学的有意差を認めた項目を重み付けし足し合わせた、0-15 点までの診断スコアを作成した。ROC 曲線では 10 点が UCAN と SA/A を区別するカットオフ値であった。この診断スコアは各項目単独より、正確に診断することが可能となった (感度 : 65.7%、特異度 : 94.4%、陽性的中率 : 85.2%、陰性的中率 : 84.8%)。この診断スコアは、潰瘍性大腸炎を背景として出現し、内視鏡的に切除された粘膜内病変の鑑別に役立つ。さらに、内視鏡切除後の再発率などの考える上で有用である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。